



カトリック長崎大司教区 広報委員会 〒852-8114 長崎市橋口町1-1 長崎大司教館内 Tel. 095-843-3869 Fax 095-842-4460 振替口座 01880-5-2699 発行人 山田良秋 印刷所 株式会社 インテックス

Table with prayer intentions: 祈りの意向, 祈りの使徒, 教皇, 日本, 祈いの意向

2026年のご復活の喜びの手紙

声かけは

愛しているの確かなサイン

大司教ペトロ 中村 倫明



主のご復活およろこび申し上げます。そして、今年のご復活に洗礼をお受けになった皆さま方、おめでとうございます。

「声かけ」は「愛している」のしるし

昨年のことになりますが、お一人の女性の方から、その方の教会においてクリスマスに受洗者がおられたとの報告のお手紙をいただきました。その時の受洗者は、お二人のご高齢の方だったそうです。

ろが、昨年の聖年の年のお正月に、その方の方から「洗礼を受けたい」とお話しになり、一年かけてゆっくり準備をなされて昨年のクリスマスに受洗となつたとのことでした。

洗礼式が終わって、その方は「わたし、なんでこんなに悩んだんだろう。心がスッと軽くなり、ご聖体がいかにやさしい味！」と涙を流しておっしゃったそうです。お手紙には、「声かけ」が実りていただきました」と書かれてありました。おめでとうございます。

「声かけを」との一言ですが、このお手紙の方は数十年にもわたり何百回もあきらめないうで声をかけてくださつた。それは、その方のことを案じ、心に掛け、愛しておられたからです。ありがとうございます。

洗礼ではありませんが、教区には堅信後に参加できる「クルシリヨ」という3泊4日かけての催しがありま... 大司教ペトロ 中村 倫明

おっしゃる方も少なくないと思います。声をかけてくれた人は、あなたにもキリスト者の喜びを伝えたいからです。あなたにも本物の神さまに出会ってしあわせになつてもらいたいからです。その人は「キリスト者として素晴らしい」ということを知っているからです。そして、その人にとつてあなたは大切な人であり、その人はあなたのことを愛しているから、あなたに声をかけてくれました。

「声かけ」は神さまが「愛している」の具体的なサイン

声かけは、このわたしたちが、その人のことを無視せずに見捨てていないことを示すだけではありません。神さまこそが、このわたしたちを見捨てることなく愛しておられることを具体化していくものです。神さまこそが、絶えず、このわたしたちに「愛しているよ」と声をかけてくださっているからです。今回の洗礼においても、「あなたのこと...」

「互いに愛し合いなさい」「互いに声をかけ合いなさい」

「互いに愛し合いなさい」イエスさまの心からの願いでした。どうすればいいのかわからない人は、まずは「互いに声をかけ合いなさい」ここから始めてみてください。人を愛すること、人を尊敬すること、人を大切にすることは、小さなあなたたい声かけから、すでに始まっています。

おともだちへ せんれいってなに？



おおくのおともだちはあかちゃんの時きせんれいをうけました

それは おとうさんおかあさんがみなさんのことをあいていてみなさんのしあわせをねがっているからです おとうさんおかあさんはみなさんのことがだいすきでみなさんをぎゅっとだきしめてくれます

そのおとうさんおかあさんはかみさまもわたしたちのことがだいすきで わたしたちのしあわせをねがっていることをしています かみさまはわたしたちみんなのおとうさんだからです

だから おとうさんおかあさんはかみさまに「わたしたちのこのこを あなたのこをぎゅっとだきしめてください」といってかみさまのてにゆだねかみさまが「いつもともにいるよ」ってわたしたちをぎゅっとだきしめてくださる

それがせんれいです だから おともだちのみなさんもおとうさんおかあさんをそして かみさまを「わたしだいすき」ってだきしめてくださいね

ほしかげ

桜のつぼみがほころび、新しい年度が始まりました。4月は、進学や就職、異動など、多くの人々にとって「新しい生活」が動き出す季節です。慣れ親しんだ環境を離れ、期待と不安が入り混じる中、私たちはそれぞれの「門出」を迎えています。今年の4月は、典礼暦において最も大切な「復活の主日」とともに幕を開けます。十字架の死という深い闇を突き抜け、キリストが死に打ち勝って復活された喜びは、まさに私たちが直面する「新しさ」の源です。冬の厳しさを経て春の命が芽吹くように、主の復活は、どのような困難の中にも必ず「新しい命」と「希望」が準備されていることを告げています。新しい環境では、戸惑いや孤独を感じることもあるかもしれませんが、復活かされた主は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる」と約束されました。私たちが歩む新しい道は、決して一人きりの旅ではありません。主が隣にいてくださるといふ確信は、私たちに一歩を踏み出す勇氣を与えてくれます。心に「復活の光」を灯しましょう。過去の失敗や後悔という「古い自分」を脱ぎ捨て、キリストと共に新しい自分を歩み始めるのです。私たちの小さな歩みが、周りの人々へ希望を運ぶ「光の証し」となりますように。主の復活の喜びが、皆さんの新しい年度の歩みを豊かに照らしてくださいませ。お祈りいたします。 (@)

2025聖年の振り返り

「一日」とも、一人」とも

教区シノドス担当司祭 岡秋美
(飽の浦教会主任)



教区シノドス担当の岡師と左奥は副担当の野濱達也師(2025年12月28日聖年閉幕ミサ)

「聖年の間は、シノドスはお休みか？」と思われていた方もいらっしゃるでしょうか。いえ、とんでもないことです。聖年こそ、聖年をきっかけにさらに、わたしたちはキリストに結ばれた同じ神さまの子ども・同じ兄弟姉妹として「ともに歩んでいこう」と努めてまいりました。聖年はもちろん大切ですが、聖年を過ぎた後のこの一年もまたさらに大切です。聖年でいただいたお恵みを無駄にしないように、失わないようにしなければなりません。「アヴェ・マリア、恵みに満ちた方」。そうは言ってもマリア様に常に新しいお恵みが与えられていたわけではありません。マリア様はいただいたことばやお恵みを常に「思いめぐらせて」おられたのです。わたしたちもこの聖年でいただいたお恵みや今までともに歩んできた信仰生活を思いめぐらせながら、わたしたちもまた「恵みに満ちた」キリスト者、「恵みに満ちた」長崎教区になれたら幸いです。

① 聖年の準備

2024年12月29日、聖年の開幕ミサ、とにかくそれまでに!! 聖年を迎えるにあたり長崎教区では特別に実行委員会とか企画委員会



2024年12月29日、聖年の開幕ミサ、とにかくそれまでに!! 聖年を迎えるにあたり長崎教区では特別に実行委員会とか企画委員会を待つばかりでした。少しの修正は必要ですが、その司祭評議会からも許可を得て、発注に取り掛かることができました。クリスマス前後に発注したものが届くというところで首をかかなり長くして待ち、届いたらずに配布・発送に取り掛かりました。長崎三地区は手渡しで配布、それ以外の四地区は地区長神父様

とかを立ち上げることはしませんでした。シノドスのコア(中心・中核)チームであり各委員会の委員長の集まりである「委員長会議」と、毎月行われている司教様や司教総代理、教区本部事務局長や教区会計など教区全体の企画運営を担う「教区本部事務局会議」を中心に聖年の準備をしてきました。わたしはシノドス担当者としてそのどちらにも所属してあります。

② スタンプ巡礼開始

『希望の巡礼者』。これが今回の聖年のテーマでした。長崎教区ではこの聖年、25の教会を「巡礼指定教会」として(前述の)スタンプ帳をつくり巡礼を奨励してきました。

2024年、すでにバチカンが聖年の年間行事の日程表を公開していましたが、長崎教区でも同じようなものをつくらうと計画しました。まずは「2025聖年の日程表」(ポスター)。それから「神よ、あなたは私の希望」という長崎教区の聖年のキャッチフレーズが入った「パンナ」と「のぼり」です。長崎では昨年被爆80年を迎えましたので、「被爆80年」の文字もその「ポスター」と「パンナ」のほりに加えました。「とにかくこの三つを整えることさえできれば聖年を迎えることができる!!」と、夏ごろから慌てて準備してきました。あと、できれば「巡礼スタンプ帳」と「スタンプ」もそれまでに。

の教会にまとめて発送しました。わたしもクリスマス明けに遠くは島原、小長井、諫早にと事務局長神父様と一緒に車を走らせました。それで何とか、何とか、聖年開幕ミサまでに全てを届けることができました。スタンプ帳もスタンプも間に合いました。

開幕ミサを無事に終え、12月31日の朝、さっそく巡礼開始。まずは我が巡回教会である岳教会に行きました。巡礼指定教会に指定されるのも初めてで、普段はあまり来ない巡礼者を迎えるというところで、信徒みんながちょっと緊張気味といった感じでしたが、迎える準備は整っていました。信徒たちの「迎える喜び」と輝きも感じました。祈りを終えても新鮮な気持ちで最初のスタンプを岳教会で押すことができました。「よしっ!!」。次は女神大橋を渡って大山教会へと。大山でも「よしっ!!」。その次は伊王島大橋を渡って馬込教会、帰りに中町教会へと、「よしっ!!」「よしっ!!」と長崎南地区指定の教会四つを巡り、スタンプを押すことができました。一度押したら止まらない、その日に中地区の二つの指定教会に行きましたがスタンプは押せませんでした。残念。いや、いやいや。巡礼それ自体が目的であり、巡礼それ自体が喜びです。ローマに行かなくても、聖年が終わっても、スタンプが押せなくても、全部回れなくても、認定書や記念品がなくとも、巡礼は巡礼です。

③ 「253人」

2025聖年の25巡礼指定教会を全て巡礼した人は253人でした。達成者には「希望の巡礼者」の認定書とちよとした記念品を教区から贈りました。100人達成すればいいかなと想定しておりましたが、なんと200人超え。最初に達成したのが、湯江教会の濱口夫妻。なんと3月中には達成しておりました。第100号が飽の浦教会の荒木忠義さん。第200号が上神崎教会のシスター山口マサエさん。閉幕式で認定書をいただいた中村大司教様が第230号。最後の第253号は曾根教会の川原昭如神父様でした。ちなみにわたしは第153号でした。飽の浦教会が22名。鯛之浦教会が21名。浦上教会が17名の達成でした。五島、平戸の教会・信徒たちがよく頑張っているなど感心し励みになりました。「あと五島だけ」「あと平戸だけ」「あと生月だけ」「あと島原だけ」ということをよく耳にしましたし、逆に「自分の地区だけ回った」ということも耳にしました。今回の聖年のテーマやスタンプ帳が何らかのきっかけになったことは間違いありません。

「今後その心のうちにある希望の光を社会の中で輝かせ、多くの人々とともに天の都を目指し歩んで行ってください」。これが「希望の巡礼者」の認定書の最後のことばです。

④ 子どもの集い

「浦上教会を子どもたちでいっぱいにする」。2025年4月2日、浦上教会において教区の「子どもの集い」が開催されました。信仰教育委員会の呼びかけで召命委員会とともに話し合いを重ね、その他多くの協力を得て開催することができました。両親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をし、イエスが十二歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都に上った(ルカ2:41-42)。わたしたち長崎教区にとつてのエルサレムの神殿は、司教座聖堂である浦上教会です。五島からも平戸からも教区全体から子どもたちが神父様やシスター方とともに、また家族や教会学校のスタッフとともに700人余り集まり、全体で1000人ほどの集いとなりました。「同じ神さまの子どもである」「同じ長崎のカトリック信者である」「神さまはいつも働いておられる」ということを体験し、再認識

⑤ 「一日」とも、一人」とも

「一日一善」「一人一役」。ミサ、祈り、霊に開ける会話、分かち合い、奉仕、教会活動、学業、仕事、生活など、信仰生活と日常生活の両方で「ともに」の体験とその繰り返しがわたしたちには大切です。目指すは「一日」ともです。また「一人一役」ほどに大きなものでもなく責任もなく、もつと気楽に身近に何らかの集まりやグループに参加したり新たに作ったりして、「決して自分一人ではない」「決して誰一人として独りにはしない」「神さまもいるし、イエス様もいるし、神父様もシスターもいるし、信者の仲間もいるし大丈夫。何とかなる」「そんな信仰信頼とエネルギー源となるものがあればいいと思います」「一人一人」ともです。

⑥ 「8時前、全員祈ろう!!」

「8時だよ、全員集合!!」。以前お茶の間でよく聞いたフレーズだと思います。新しい祈り書が出来ました。これもまた聖年のとても大きなお恵みです。典礼委員会の皆様、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。新しい祈り書は教会用のバックに入れて、今まで使っていた祈り書は家の祭壇やお茶の間に置きましょう。子どものころわたしの家では8時のテレビ番組が始まる前、7時55分ごろにこたつの中で晩の祈りを家族そろってしていました。何人か人に聞きましたら、大体みな同じでそのころでした。せっかくなので新しい祈り書も出来ましたし、みなさん、「7時55分に晩の祈りを唱えましょう!!」。8時ではなく7時55分です。一人でも、場所が離れていても、みんな「ともに」の祈りができます。

この4月以降、「カトリック信徒カード」と長崎教区全130教会が載った「スタンプ帳」をみな様にお届けできるよう準備しております。お待ちください。



聖年閉幕ミサ(2025年12月28日浦上教会)

各地で堅信の秘跡の恵み

平戸地区



平戸地区合同堅信式が、2月15日(日)14時から紐差教会で行われ、受堅者22人(佐世保地区から2人参加)が堅信の秘跡の恵みを受けた。当日は天候にも恵まれ、信徒、修道者、司祭団合わせて200人ほどが集い、堂内がいっぱいとなる堅信式となった。

式後は小教区ごとに記念撮影を行い、大司教から各自の名前入りの記念ご絵を頂いた。

長崎北地区の5教会

2月22日(日)14時から滑石教会聖堂において、中村倫明大司教は説教

で、中村倫明大司教主司式、6人の司祭団の共同小教区合同の堅信式・ミサが執り行われた。この日のために準備を重ねてきた受堅者20人(滑石10人、長与6人、時津・出津各1人、黒崎2人)と保護者・関係者が共に祈りをささげた。

「祈りと共に神様を証して教会への無料招待券を配っていきましょう」と受堅者と参列者に語りかけた。また、塗油の式前には大司教に促され、受堅者と保護者・代父母が互いに抱きしめ合い、聖堂に感謝の声が溢れた。

聖堂での感謝式の後、信徒会館で開催された茶話会にも多数が参加し、堅信のお恵みを全員で分かち合い、感謝のうちに閉会した。

佐世保地区



3月1日(日)、佐々教会で中村倫明大司教の司式のもと、佐世保地区合同堅信式が行われ、12教会61人が堅信の秘跡のお恵みにあずかった。

大司教は説教の中で、「3月になると東日本大震災のことを思い出します。あの時、家族を大切な人やものを失い、

傷つき打ちのめされていった人たちが、それでも他の方たちに『もう大丈夫よ』と声をかけ、励まし続けていました。真の愛とは、何も問題のない中ではなく、足りなさや弱さ、さまざまなことが



ありながら、それでもなお与え示していくものなのです。皆さんはすでに、神様、お父さんやお母さん、家族の方から愛され抱きしめられていました」と語り、愛の証し人としてこれから歩み出す受堅者たちを励ました。

大邱教区から神学生派遣



ミサでは話をした2人にも感謝

韓国・大邱大司教区から派遣される神学生、金主話さんが今年4月から日本カトリック神学院(東京)での生活を開始する見込みとなった。金神学生はすでに韓国の神学院で神学課程の一段階を終えているが、2026年度は「日本語研修生」という形で予科生と共に学び、27年度は神学科へと進級することになる。司祭叙階後は6年の任期をめどに、長崎教区へ派遣される予定。金神学生のためにお祈りください。

新刊良書

★片岡弥吉全集5 高山右近大夫長房伝・キリシタン墓碑の研究・岩永マキ

1980年に亡くなったキリシタン研究者、片岡弥吉氏の全集。

(以下、「はじめに」全集5の刊行にあたって)から、この第5集をもって片岡弥吉全集の編

集を完了する。第5集には、昭和十一(一九三六)年に自費出版した初のキリシタン研究書「高山右近大夫長房伝」、生涯に互って取り組んでいた「キリシタン墓碑研究」の論考三篇、それに岩永マキの伝記二題を収録した。片岡弥吉のキリシタン研究の「事始め」ともいえる著書と論考である。(中略)この全集が、キリシタン研究を志す研究者に幾分か役に立つことがあれば、研究者の育成を願っていた片岡弥吉にとってこの上ない喜びであろうと信じる。 智書房、税別3200円。

★水たまりの月

文||古巢馨 絵||おむらりこ



「きのうのことが遠い昔にいつてしまいい、昔のことがきのうのように戻ってくる」とは知りませんでした。 しあわせだったのか、あの日のことをよーく覚えているのです。

人の中には、ほかの人はだれも入れず、ふみは、『とっておきの心』に入っているから忘れないうのです。(本文から) 長崎教区司祭と、図画工作教諭・絵本画家とが手がけた1冊。B5判変形、上製本、24頁。 青葉舎、税別1300円。

「霊における会話」通して 現状、困難、未来に気づく

全国シノドス担当者研修会

2021年(24年)に実施された世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会はその後25年、24年10月の第2会期で採択された「最終文書」を基に実施する期間「実施ステージ」へと進んでいる。教皇庁シノドス事務局は、この歩みは28年10月にバチカンで開催される「教会総会」で頂点に達するとしている。

日本の教会では司教協議会シノドス特別チーム(担当・菊地功枢機卿)がこの「教会総会」に向けた行程(*)を示すとともに理解と協力を呼びかけ、昨年9月大阪での

勉強会に続いて今年2月24日(火)、25日(水)に福岡教区・大名町教会で全国シノドス担当者の研修会を開催した。 研修会「みんなで作ろうシノドスの教会」は、「霊における会話」を通して、私たちの現状、困難、未来について気づいていこうというもの。全15教区から参加したシノドス担当者、奉獻生活者、信徒ら総勢約60人は、教区や小教区で同様の取り組みをする際に参考となる研修とすることを目標に、2日間にわたってグループに分かれての「会話」と全体会を重ねた。

長崎教区からは中村倫明大司教、岡秋美師(教区シノドス担当司祭)、岩田架那耶修道女(お告げのマリア修道会)、中ノ瀬ゆき氏(小ヶ倉教会信徒)が参加。岡師は、「霊における会話」とともに「一つの体験として紹介できるといい」と再確認できた」と話していた。

*2028年の教会総会に向けた日本の教会の行程：▼2025年6月からの1年間「最終文書についての理解を深める期間」▼26年6月からの1年間「各教区、各分野で具体的に取り組みをする期間」▼27年6月からの1年間「各レベルでの評価を行う期間」。

主の平安

株式会社 五島式典社(齋場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551

FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町 1899-1 TEL (0959) 64-3101

FAX (0959) 64-3102

相続登記はお済みですか

土地・建物・会社・法人の登記手続 相続手続 遺言書の作成 相続土地の国庫帰属手続 など

まずは、お電話を!!

司法書士 行政書士 山下 緑 事務所

ミカエル 山下 緑

〒854-0014 諫早市東小路町10-21 電話 0957-22-6177

株式会社サンフールド・ロさま麺工場

長崎市西出津町2528-1

TEL(0959)23-0610

FAX(0959)23-0611

右記URLからご注文できます

赤城墓地 小家族様 分譲中

長崎石彫 岩永

095-862-2469

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ドミニコ 溝口悦雄

〒858-0926 佐世保市大湊町511番地3

TEL(0956)47-4380

主の平安 カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村勇二

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011

24時間営業 FAX(095)843-9896

ニュースとダイジェスト開始から1年 教会の「今」を身近に

カトリック中央協議会 広報部長 尾高修一

皆さんは、教会のニュースをどのようにして手に入れているのでしょうか。教皇様やパチカンの動向をはじめ、海外・国内における教会のニュースをお届けしているのがカトリックジャパンニュース(以下、CJN)とカトリックジャパンダイジェスト(以下、CJD)です。その開始からまもなく1年を迎えるにあたり、思いを綴ってみようと思います。

広報に関する方針転換

ご存じのように、2024年に「カトリック新聞」の休刊が発表され、その後はインターネットによる情報発信をメインとし、月1回タブロイド判(紙媒体)を発行することになりました。日本の司教団による広報に関する方針転換でした。これ以降、私はカトリック中央協議会で広報とかわるようになりました。

新しい情報手段の一つとして

情報の発信方法が変更されましたので、これまでと異なる点をいくつか挙げてみましょう。インターネットで情報を発信することで、スピード感をもって情報を届けることが可能になりました。また、カトリック新聞は、それを読みたい人がお金を払って読んでいましたが、現在はインターネットがつながっていれば誰でも利用できます。宣教の観点から見ると、その可能性はこれまでより広がるものと思います。

CJNにアクセスし、Xをフォロー

さて、CJNやCJDは、皆様の間にどれだけ浸透しているのでしょうか。CJNに関して、2026年2月のページビュー(PV)数を紹介しましょう。一日当たり最大で7030PV、平均して4766・4PVというデータがあります。CJNやCJDが始まって1年足らずですが、まだまだ努力のし甲斐があります。

カトリックジャパンニュース サイト <https://www.cj-news.org/>  https://x.com/Cath_Jpn_News 

「長崎への道」巡礼の先駆者 本田周司さん逝去



日本二十六聖人が歩いた、京都から長崎までの道を徒歩で巡礼する「長崎への道」の先駆者、イグナチオ本田周司さんが1月11日に逝去された。98歳だった。葬儀は1月13日、大阪・吹田教会で行われた。

本田さんは1974年、新聞の連載小説に描かれた二十六聖人の挿絵に引き込まれて読みふけり、その後、結城了悟神父

の著書『長崎への道』に出会い、徒歩で巡礼する集い「長崎への道(通称・ナガミチ)」の大きな指針を得た。76年、京都・西陣教会を出発し、約25日かけて西坂に到着した。本紙2014年2月号「人」の記事の中で、当時の心境を次のように語っている。

「この時、二十六聖人方と素直にじっくりお話ができた。この感動と祈りを、広く人々に知らせよう」と語り掛けられた気がして、この約束と誓いは今も私の心から消えることなく続いています。1982年8月から4

年3カ月かけて歩き続けた、最初のナガミチ巡礼団130人は86年11月23日、西坂に到着。巡礼中に洗礼を受けた人もいて、ナガミチの活動は人々に影響を与えたいと考える。活動は現在、「日本二十六聖人『長崎への道』巡礼友の会」に引き継がれている。

3月1日(日) 11時から西坂・聖フィリッポ教会で行われた主日ミサでは、本田さんのご遺族とナガミチ会員らが参加し、故人のためにも祈りがささげられた。ミサ後は関係者皆で、元六甲学院音楽教諭でもあった本田さんが作詞作曲した『二十六の聖』『津和野哀歌』などの3曲を、感謝を込めて歌った。

2027年8月に WYDソウル大会

WYD世界大会が2027年8月に韓国のソウルで開催される。テーマは「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている(ヨハネ16:33)」。

1985年に始まったWYD世界大会。アジアでの開催は1995年のマニラ大会以来で、日本の教会からも多くの若者がソウルを訪れることが期待されている。日程は、「教区での日々」が2027年7月29日(木)〜8月2日(月)、本大会が8月3日(火)〜8日(日)。日本巡礼団の募集内容、募集時期は2025年10月時点で未定。(中央協議会HP参照)



お知らせ

一葉募金からの支援
▼火災により被災した紐差小教会信徒へ見舞いのため20万円(3月10日送金)。

感謝

― 香典返し ―
長崎大司教区
●高野正晴様(大浦)
故マリア高野ヒロエ様
●池田利雄様(植松)
故マリア池田キヨ子様
●松永一久様(紐差)
故テレジア
●松永千代子様
●匿名様(三浦町)
●西尾雅俊様(浦上)
故マリア西尾富子様
ご寄付ご芳志を賜り、感謝申し上げます。

2025年度全国教区広報担当者会議 技術学び、思い分かち合う



2日目は初めに、司教協議会広報委員会担当司教の酒井俊弘司教(大阪高松教区)の講話。世界やアジアにおけるカトリック教会の広報ネットワークの現状と、昨年12月に香港で開催されたアジア司教協議会連盟(FABC)の広報担当司教協議会に関する話があった。続いて酒井司教は、文章校正などに役立つAIツールを実演しながら、その使い方と押さえておくべき注意点を説明。その後講話を受けてグループで分かち合いをし、午後は新たにグループ分けをして、教区報の発行状況や各自が感じている問題・課題、他教区の担当者に尋ねたいことなどを分かち合った(写真)。

1日目午前中は、広報部長の尾高修一師(長崎教区)が司教協議会の諸委員会および中央協議会の組織改編について説明。自己紹介では担当者らが、業務内容や日頃の悩みなどを率直に語った。午後は「写真撮影の基礎」― 記事を伝えるための写真とは ― をテーマに、中央協議会専属フォトグラファーの峰脇英樹氏(桐生教区)による講話があった。スマートフォンを用いた撮影方法を実技を交えて学び、ピントをしっかりと合わせることで、ズームだけに頼らない構図を考え工夫すること、また撮影した写真の画像調整や肖像権への配慮など、留意点への理解を深めた。

最後は、司教協議会広報委員会委員長の勝谷太治司教(札幌教区)の司式によるミサがささげられ、2日間の学びと分かち合いに感謝して会議を終了した。

参加者は、「今回は分かち合いの時間が多く、担当者同士でいろいろな話をし、普段現場で感じている問題・課題を整理する機会となった。また、講話の中で紹介された、『AIは例えばサブプリメントであり、本当の栄養ではない。教会における栄養は、秘跡、広報の栄養は、生の証言(ウイットネス)である。それらを大事にしよう』という言葉が印象に残った」と話していた。2026年度の会議は11月9日(月)、10日(火)に実施される予定。

核なき世界基金
被爆地からのチャレンジ
みんなでいのちと地球を守ろう!
<https://nuclear-free.net/>

いっしょに
●井持浦ルドルド祭 5月10日(日)13時、井持浦教会。
●雲仙殉教祭 5月17日(日)13時30分、雲仙メモリアルホール。

カトリック城山教会 慰めの聖母墓地

所在地 長崎市西町 366 番地 駐車場 4 台分あり
納骨堂 1 基 90 万円 区画: 120cm × 120cm
納骨室 1 室 70 万円 区画: 90cm × 90cm
骨壺の大きさ 幅 18cm・高さ 21cm 以下
※上記いずれも管理費 1 区画 3,000 円/年。
共同納骨室「ラザロの家」条件あり(無縁者、墓じまい)
1 壺 10 万円 骨壺の大きさ 幅 18cm・高さ 21cm 以下
※上記は永代使用権料。
毎年5月にロザリオの集い・11月に追悼ミサが墓地で行われます。
毎月第3日曜日(8月、11月、12月除く)にお墓の相談会を実施しています。
カトリック城山教会 慰めの聖母墓地管理委員会
〒852-8023 長崎市若草町6番5号 TEL 095-844-9208

白蟻調査無料・駆除工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者 大島和彦
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
富長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

マイホームの美容と健康に!
(有) 山川 塗装
有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役 ベトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729